〔大正十年四月二十二日第三種郵便物認可〕　昭和五年一月十八日　撃城新聞　〔土曜日〕　第二千七百三十三號　〔一〕

撫掌記

福島將夫君に寄す

（一）

島田忠夫

□

予は平町に來住して未だ冷笑し去るのは生噛りの文一ケ月餘、「いばらき」新聞學少年、都會かぶれした二文藝欄には在京中よりしば〳〵寄稿せるを以つて、茨城、磐城地方の諸新聞には絶えず眼を注いでゐる。たま〳〵今夕「磐城新聞」を見るに、「雪夜艸稿」なる題の許に福島將夫君の一文が掲載されてゐる「飯郷手記」と云うてゐるが、明かに福島君の主張主張である。文中北海道の文學少年の私淑する大言を弄して田舍人を煙に巻いたりしたがるものである。しかるに何ぞや、福島將夫君は北海道に行つてから、文學の中心地を來した報を聞かない。或は熊捕りでも修業して來られたのではないか、まさに掌を拊つて笑ふべきである。

□

いま、福島君が掲載するところの口語歌を一二掲げ〳〵良猛進に向ひ來るべし▲七赤　吉日なるに「詩的事」の宮固君に急ぐなかれ▲七赤　吉日なれど氣に緩みを生じ易し注意すべし▲八白　和平專一とすれば幸福なる一日となるべし▲九紫　飾りを戒め質利を專らとして務勵すべし

歌について考へたい。

色々な文藝雜誌がはずんでた
鈴蘭カフエーの
夏向けた雪の夜

期ういふのが福島君の歌である。たしかに口語歌といふものゝ存在價値があるであらう。しかしこれでは短詩風である。散文詩風である。短歌ではない。たゞこれ丈けのことを云ふのに口語歌などゝ歌の形式を藉りる必要は更にない。或は福島君は云ふであらう。啄木の歌と同じ形式だと。現に君は「啄木の詩歌を讀する私には」と文中にも云つてゐる。しかし見給へ。福友、兒手にたれたかの塚別入でもあつてくれるように願ひ乍ら、彦九郎は再びたづねかけました

「左樣でございます。四十五六の至極柔和な方のようにお見うけ申しましたが……」

「うむ」

「に言葉少。こくものやはらかな精律を帶びた方でございました。

市之助の話ぬところと先ない一時の幻影にしかすぎな日の主計とではまるで雲泥

芳醇無比

白馬

松本德一吟醸

平電話七五二

▲一白　定業さへ堅く守り居れば大なる支障はなし▲二黒　急速の發展は無けれども平和なる吉日たり▲三碧　他の力を頼まず自力を以て基礎を固むべし▲四綠　上走りをせず心を落付け空想を去りて吉し▲五黄　住めば都不足不自由を思はず勵むが勝なり▲六白　そろか素讀の柳谷先生の許でとお聞きして高辻樣に屋敷と申するのはいづれでござるか、お敎へ下さるまいか」

「いや、立ちいつたことをお聞きして濟まなかつた。それでは何か柴田殿にもやはり素讀の敎へをうけに遊うて居らるゝのかな」

「いや、さようでは御座いますまい何が柳谷先生とはお友達のように承つてをりました」

「なる程」

彦九郎は、もう一度、蛤御門で出遭つたしば田と名乘る武士を思ひ浮べてみましたが……」

市之助はしばらく考へて居りましたが

「如何でございませう。たしか錦小路上るの辻とか承つてをりましたやうに存じますが」

「はい、よくは存じませぬがなんでも高辻樣、お屋敷の相異です。

思はず彦九郎は敎はれたような氣もちになつて

「うむさようでござつたかして、いづれにも住ひが、御存知ではあるまいか

平町の電燈値下要求の 期成同盟會陣容成る
會長に平澤田町區長を推し 全力を擧げて橫暴な會社に迫る
先ず最初は減燈運動

平町の電燈料値下に對する區長會は既報の如く十六日午後一時から平町役場內に於いて開會運動方法其の他の協議を爲し直ちに前回の區長會に於いて決定した値下要求の期成同盟會の創立委員會を開催先ず同盟會の會則制定の件を協議した結果萬場一致次の如く會則を制定直ちに發表した

會　則

第一條　本會は平町電氣料値下期成同盟會と稱し事務所は平町會議事堂內に置く

第二條　本會は平町に於ける電氣料値下實行を期するを以て目的とす

第三條　本會々員は平町電氣料値下に贊同したる者を以て之に充つ

第四條　本會に左の役員を置く
會長　一名
副會長　二名
委員　若干名
幹事　若干名

幹事は各區長及平町電氣料値下實行委員を以て之に充て委員は幹事の互選とし會長副會長は委員の互選とす

第五條　會長は會務を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時之を代理す

委員は電氣料値下實行に關する一切の件を協議決定するものとす

幹事は委員の協議決定したる事項の逐行に任ず

第六條　役員は凡て無報酬とす

第七條　本會に要する費用は委員會の決議により有志寄附又は町の補助を以て之に充つ　以上

次いで役員選擧に入り選擧の結果會長は田町平澤區長副會長草野清次、同齋藤寅吉外幹事略すと決定直ちに此實行方法の協議に入り先ず當部は平町全町の電燈減燈運動に依つて會社と對抗し實効ない場合は電燈料の不能同盟或は廢燈等の最後の態度に出で飽まで値下を要求する事となつた

幼時に別れた 母の捜査願
遙々秋田から平署に

秋田縣雄勝郡成瀨村字岩村川靑池勝美(三七)は實母すは(三八)の捜索方を十三日平署に依頼した理由は勝美の幼少の頃勝美を親戚に預けて兩親は石城內郷村磐城炭礦へ出稼ぎに來たが數年前父親は炭礦で死亡しその後母は知人の所に寄寓して炭礦稼をしてゐたるも二三年前よりパッタリと消息を斷つた爲總てに不自由を來して居りことに母親に一目會ひたいからといふのである

他町村に率先し 平町六學級を減
槍玉に上げる教員四名 成行注目さる

平町では昭和五年度豫算編成に當り町費中最多額を占むる教育費を四年度より約一割五分減の方針を以て居ることは既報の通りであるが町當局と學校當局との打合せの結果一學級現在收容數五十四、五名を約七十名限度とし新設される第三小學校に十二學級を移すともなほ現在の六十六學級より四學級を減することに決定した、即ち五年度の自然增加二學級を加へてであるから結局六學級を減ずるわけであるこの結果教員六名が減せられるわけであるが第三小學校の新設により校長一名並に專科一名の教員を必要とするので結局四名減に落付くのであるが自發的に家庭の事情で辭職の意あるものは目下の處女教員一名あるだけで他は何れも平地方在職を希望し當局が何人を處斷するか注目される向同町には代用教員(大學出身)一名准教員一名で他は皆訓導である

お正月を壽ぐ 萬歳の由來
才造は災除の轉化 最も嚴肅な開門式

來る卅日は恰度舊曆の正月元旦に當りますが、田舍ですと新曆になつてこの正月を祝つてをります。この時分になると所謂三河萬歳とか、會津萬歳が方々に出て行きます。この萬歳について一寸述べて見ませう

萬歳の起りは人皇四十二代文武天皇の御代で今から千二百餘年前でありますが、文武天皇が三河國に行幸されましたが、この國の者は天皇の御下向を御歡迎いたしました、村の名主百姓が思ひのまゝに參拜の心持ちで御機嫌を伺ひましたが。この中に三河の百姓吉良太夫と庄次と申す者も能り上りました、恰度正月のことで御盃のお流れを頂戴し、やがて酩酊して御前にあることを忘れて「さいはら」を歌ひました、これには公卿たちも大喜びで天皇もこれを御透見されて御感斜ならず「つくせ〳〵」と申されました、二人は身に餘る面目を施して目錄精米などを賜はりました、それからこの目出度さの言葉から萬歳となつたのです、さいぞうはもと災除から來た轉化です、災除といふのは鼓を打つて禍ひを除く意味です、元來鼓は魔除の鳴り物で、兩方から皮を當たゝので陰陽になり、萬物この內に籠つてゐるからこれを打ち鳴らす時は幸ひを招き禍ひを除くといふのです。ですからさいぞうはこの鼓を鳴らし惡魔を除かんとして奥御殿までも女中共を逐ひつゝ惡魔を逐ひ除く形でヂャレを入れます、そのためといひませうか、大名の奥殿までも入れる特許を幕府から與へられてゐたものです、さてこの萬歳の來歷をいへば、吉良太夫と庄次とは大和に住居を賜はつて時折帝の御召に應じてゐたものですその時の目代職は大江定基で、これが內命によつて萬歳の祝言を作らしめました、そして國內御免許證を與へ、諸國巡禮をさせました、この頃から三河萬歳と大和萬歳とに別れる樣になつたのです、家康の父廣忠の如きは法印即ち萬歳師を軍中に伴ひ武運長久の祈禱をさせました永祿六七年の頃家康が未だ天下を統一しない前に三河渡の城主烏井久四郎なるものゝ家來太田道圓隔なる軍師がありました一向宗徒に加擔して德川勢に敵對しましたので家康は高札を立てゝ捜索しました、別所法印が駿州淸水に道圓兩のあることを知つてこれを家康に告げましたがこの功で關東十七ケ國の勸化や關所通り拔け御免の墨付を頂きました、これから萬歳は元旦吉辭の祝事には御本丸や諸大名から一般へも廣く行はれましたその後三河萬歳が又三系統に分かれました

（一）幡豆郡西尾町西の町系
（二）碧海郡安城町別所の系
（三）寶飯郡小阪井小山田系

でこの中三は最も衰へ第二は全盛と第一は昔全盛を極めたものです、二百年以後は三河萬歳の總取締を西の町壽下村で行つてゐたものです、萬歳の式事について御門家より下付された勸職を見ますと、占なひ方も祈禱も地祭り、家祭り、祓守り札、千歳萬歳迄この萬歳に許されてゐます、その著るしい行事を云ひますれば正月の開門式です、これは正月元旦、萬歳は正裝して朝早く城門の外に行つて『鍵いらず戶さゝぬ御代のあけの春』と呼ぶと『思はず腰をのばす海老錠』と門內から呼應して目出度く開門したものです、これは元旦の吉例として江戶時代には千代田城、淺草御藏で行つたものです、この萬歳の正裝は風折烏帽子に大紋直衣を着し、さいざうは純豆烏帽子に素襖を着するのが正裝でありますが、滑稽を加へこれに興味を添へる爲め頭巾に代へたものです、この祝言は西の町と別所とは異なつてゐて別所は『どう〳〵たらり、とうたらり國々の君は繁れど』で始まり、西の町のは神を禮拜し祐言に起り天の岩戶開きで六つの舞樂文句があります、前句の「とう〳〵たらり」は河口慧海師の研究によれば西藏語から來たとのことです

錦村少年火防隊

錦村少年火防隊は創立以來各方面より注視されてゐるが同隊は益々火防施設に着々歩を進め火防は徹底されてあるが更に火防隊長荒井一二氏は十七日全國著名なる少年火防隊のある靜岡縣濱松町を視察に出發すると

讀者と記者
或對話
山形生

甲　解散は何としても免れない形勢だね

乙　二十一日に濱口さんは解散を斷行するといふではないか

丙　さうすると新法では解散の日から一ケ月以內といふことになつてゐるのだから總選擧は恰度舊正月ころになるネ

甲　總選擧は舊正月ころになるだらうが既に野心家は解散にならないうちから事實上選擧運動をはじめてゐるよ

乙　ところでこの區內から誰が出るのだ、さうして君逹は誰を推すのだ

甲　まあ吾々は黨の空氣の推移によつて向背を決するより外に仕方がないネ

乙　さうすると候補者が誰であらうと無條件で黨の支配に隨ふといふことになるのかネ

甲　まあさうだネ

◇

丙　さうすると君は黨議といふものを第一義とするのかネ、黨議によつて決した人物と雖も必すしも黨議なるが故に代議士として適當だと認めるわけにゆかない場合もあるよ

乙　情實といふ奴かね、情實はザラにあるよ今の政治は情實だらけだよ普選がどうの理想選擧がどうのなどゝいつて見たところで窮極するところは悉く情實だよ、大体あの人を出したのだとか、この人を援助したいとかいふことそれ自體が情實から出發してゐるのだ

丙　さうすると情實の下に選擧が行はれその反映が即ち情實政治といふことになる譯だね、瀆職だの賣勳だのと騒ぐのは騒ぐものが惡いといふ結果になるネ、君逹選擧人が抑々その母体なんだから……

◇

乙　それにしても一体誰が出るんだ

甲　誰たつていゝさ、代議士などは誰でも勤まるものなんだよ、だから要するに選擧のあと始綺麗に片づけ選擧民に迷惑をかけないといふことだ、金のない政治家は政治家になる第一條件を欠いてゐる事でもあり選擧民から飽かれるといふことだよ。

列車內の棄子は 貰つたのが本當
家人の手前をかねて 拾つたと屆出る

常磐線列車內に於て乘合せた女から乳呑兒を置き去りにされたと平署に訴へ出た石城郡小名濱町竹田九一漁夫佐藤正次郎妻のぶ(三三)の申立に該當すべき東京市麻布區生れ目下東京市外杉並町高圓寺學習院小使原長兵衞方止宿長田あき(四二)と自稱する女が水戶警察署に名も所も知らぬ女の方に列車內で愛兒とし(生後七ケ月)を呉れたが今更住所も聞かずに呉れて悔て居ると貰ひ主の捜索方を願ひ出たといふ列車中の赤兒やりとり事件は既報の如く事實貰つたものか捨てたものか少からぬ興味を惹いて居たが果然平署の取調べにより小名濱町佐藤のぶの申立はいつはりで家人に無斷で貰ひ子して叱られるではないかと不安になつた結果の陳述であることが判明した

桃節句に 雛祭り
平第二校で 珍らしい計畫

平第二小學校では來る三月三日の桃節句をよりよく可愛な兒童に意味深かからしめ樣と種々協議中であつたが結局各教室に雛段を設けて各組兒童がもより〳〵に雛人形を自分のクラスに持つて行く事になつたが之の催しは縣下でも珍らしい事であるから可愛幼子を致し導く人逹には大なるセイションを起すであらう

雜種 財產賣拂 入札

小名濱町字定西二八一番

一、原野　臺帳面積四二五步　賃測面積六一三步

入札並開札　昭和五年一月二十八日午前十一時入札即時開札

入札場所　平稅務署

公示書類　當局又ハ平稅務署ニ付熟覽

入札保證金　見積價格ノ百分ノ五以上（圓位未滿切上ゲ）

代金納付期間　契約締結ノ日ヨリ十五日以內

入札者ハ入札時刻一時間前ニ平稅務署ニ參集セラルルコト

昭和五年一月十七日

仙臺稅務監督局

駈落藝妓 捕はる
東京市外に潛伏中

江名町料理業菊屋方抱藝妓榮紅事松尾テルハ(三三)は豫ねて好い仲となつてゐた同町造船技師山田忠峯(三三)と手に手を取つて昨年十一月中駈落行方を晦ましてゐたが此の程東京市外蒲田町に愛の巢を營んでゐる事が判り主家に連れもどされた

星署長訓示

植田町三業組合は十一十二の兩日に行はれたが勿來町料理屋飲食店及び酌婦を十五日午前十時部長派出所樓上に集合せしめ星植田署長の改正新令要旨を說示された

新豫算編成に 愈々教育費削減
縣當局の强要に依つて 石城町村長會が

石城郡內の各町村は五年度豫算は前年度より一割減を標準として編成するに當り町村費の大半を占める教育費削減を以てこれに應ずるの意志を固め十五日の町村長會總會に於て右問題を申合せ臨席の本縣伊藤事務官はこの申合せを默認したので愈々教育費削減を斷行することになつたこの結果は何れも兒童の收容限度を擴大し學級の減少を計るに至り十二學級を有する新小學校を開校する平町ですら教員四名の剩員を出す狀態となり全郡內の小學校七十校を通ずれば學級減少による教員の剩員は一校一名半と見ても實に百餘名を突破しこれ等は轉校の望みなく馘首される運命にあるので郡內教員連は戰々恟々としてゐる

國有地の 入札拂下げ
小名濱町の市街地

石城郡小名濱町定西二八一番賃測面積六畝拾參步は仙臺稅務監督局にて管理中なりしが今回一般競爭入札の方法に依り賣拂をなすことゝなり來る一月二十八日午前十一時平稅務署に於て入札執行の筈に付買受希望者は仙臺稅務監督局又は平稅務署にて承合せらるべしと因みに右土地は小名濱町市街地にして交通其の他に於て利便多きのみならず住宅地向として絕好の場所に在り將來有望の土地なる由詳細は本紙廣告參照せらるべし

健康保險講演

本縣健康保險課梶原係長の講演及び活動寫眞會は十八日植田町菊田座に開催さるゝ筈

町民の調印 大半纏る
協議會を開き 猛運動開始

平町の上水道擴張工事起債の認可促進に對し平町當局では伏見町長以下全力を擧げて猛運動を開始すると共に一方各區長は全町に亘つて町民の調印蒐集に努力してゐたが大体十六日夕刻までには全町民の約四分の三の調印が纏まつたので伏見町長は此の調印を以つて各關係方面に最後の猛運動を開始する事となつたが縣當局の態度に不審の點があるので花澤荻原の兩委員は十五日出縣今十七日歸平したが同日午前十一時から反對派たる野崎氏外四名を除いて水道事務所樓上に町會協議會を召集經過報告を爲すと共に今後の運動方針に就いて協議した

三井の店舖改築披露
福引大賣出し
金三圓御買上每ニ福引券呈上
特等　江戶褄　壹枚
一等　丸帶　壹本
二等　本紡績　壹反
三等　蒲團皮　壹反
四等　風呂敷　壹枚
五等　名入御手富貴　壹本
舊十二月廿日ヨリ
五日間
御婚禮御仕度は……今
金解禁相場の大破格品を豐富に取揃へ廉價提供可仕是非御用命の程を店舖改築披露として金參圓御買上每に福引券呈上致します

營業種目
內地材　材木各種、羽柄材各種　建築諸材請負　礦山用坑木其他諸材請負
外材部　米松、米杉、大角製材調達　其他請負
(百) 佐藤材木店
常磐線平町新川町　電話三三五番

新築落成
耳、鼻、咽喉科
氣管食道科（專門）
平町南町（舊診療所向電一七〇番）
大和田醫院
大和田郡司
自炊の便あり

一圓十錢のフランス
マルソー會社元詰
マルツー、ブランク
マルソー、ルージ
生葡萄酒
優良にして安價賣行き飛ぶが如し
平二　西村屋藥舖　たはなし三番

外科　醫學博士　藤本順
產科婦人科　院長　木村寅次郎
平町新川町
木村病院
電話一六四番